

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 26 年 12 月 29 日

【事業所概要【事業所記入】】

事業所番号	3474600198		
法人名	社会福祉法人 紅輝会		
事業所名	指定認知症共同生活介護事業所グループホーム よなみの里		
所在地	神石郡神石高原町下豊松533-1		
	電話番号	0847-89-2015	
自己評価作成日	平成26年10月17日	評価結果市町村受理日	平成27年1月16日

※事業所の基本情報は、介護サービス公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先

【外部評価機関概要【評価機関記入】】

評価機関名	一般社団法人 みらい
所在地	広島県福山市山手町1020番地3
訪問調査日	平成26年12月10日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点(事業所記入)】

1・1日1回は屋外に出かけます。 2・希望があれば毎日入浴できる。 3・外出の機会が多い。 4・畑で作物を作る。 開所当時から上記の事に特に力を入れています。田舎ならではの特性を活かしグループホーム作りができたらと畑で作物を無農薬で育てています。じゃがいも、たまねぎは定番で毎年植え収穫を楽しんでいます。その他、サツマイモは皆で掘るのが楽しみです。今年の秋は栗が良く実り、ご家族様、ご近所様から、ご招待を頂き何度も栗拾いが出来ました。皆さん上手に皮をむかれ美味しい栗ごはん、甘露煮を堪能しました。また、花も目につく所に植え、一つでも話題作りになり、生活に潤いや楽しみができればと願っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

緑に囲まれ眼下に広がる田んぼや畑から季節の移ろいを感じられる穏やかな環境の中にある。近隣には小学校や福祉施設もあり、その施設で行われる餅つきには小学生と共に参加し世代間交流の場となっている。又、町内の芸能発表会等地域行事にも積極的に参加し利用者が色々な場面で地域の人々と交流できる機会を多く持つ支援にも努め、地域資源の利用と共に地域貢献としても地域主催の介護塾の講師として出向くなど率先した地域交流に取り組んでいる。外出支援も希望に沿い、花火見学や遠出の外出、夏祭り等、気分転換と楽しみごとの支援も多く閉鎖的な生活にならないよう努めている。特に優れている点としては立地的な面もあり、すべての病院受診を全面的に事業所が支援している点であると共に家族、医師、職員が個々の健康状況を共有し安心、安全な生活の確保に努めている。又、介護計画も課題だけではなくその人のできる事に着眼点を置き其の人の持つ力が発揮できる場面作り重点を置き張りのある生活に繋げて行く取り組みもされている。その人がその場所で生き活きと生活出来る様な支援を心掛け利用者の思いを大切に事業所であり、模範となるグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目【アウトカム項目】

項目		取り組みの成果(該当するものに○印)		項目		取り組みの成果(該当するものに○印)	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼすべての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼすべての家族と
			②利用者の2/3くらいの				②家族の2/3くらいと
			③利用者の1/3くらいの				③家族の1/3くらいと
			④ほとんど掴んでいない				④ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に一度程度ある				②数日に1回
			③たまにある				③たまに
			④ほとんどない				④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼすべての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
		○	②利用者の2/3くらいが			○	②少しづつ増えている
			③利用者の1/3くらいが				③あまり増えていない
			④ほとんどない				④全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き活きた表情や姿が見られている	○	①ほぼすべての利用者が	66	職員は生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②利用者の2/3くらいが				②職員の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが				③職員の1/3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどない
60	利用者は戸外の行きたい所へでかけている		①ほぼすべての利用者が	67	職員から見て利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが			○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが				③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		①ほぼすべての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
		○	②利用者の2/3くらいが			○	②家族等の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが				③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼすべての利用者が				
			②利用者の2/3くらいが				
			③利用者の1/3くらいが				
			④ほとんどない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に理念のボードをよく見える位置へ掲げている。又、目標とするスローガンも不定期に掲げている。	経営理念と独自の理念を朝礼時に唱和し振り返る機会としている。独自の理念についての研修も行い共有を図ると共に職員が目標とする介護は、と言う事で所長が考えられたスローガンも掲げ、日々の実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物や散歩に行った時、声をかけて挨拶をし付き合いができる様に努めている。地域の行事へは地域の方から連絡があり積極的に参加している。	地域行事(お祭り、芸能発表会、お祭り)等に参加し顔見知りの関係が築かれている。発表会等では席の確保をしてもらう等、地域の一員として受け入れられている。地域の介護塾への講師の依頼や民生委員の要望で介護についての勉強会をするなど地域の理解が深まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員さんに地域活動への協力をお願いをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議に参加して頂いている方の意見を活かし、地域の行事等への参加や運営に活かしている。	家族代表、地域の方、行政、有識者の参加により、利用状況、行事等の報告を行い意見交換の場とし、多くの意見や情報提供を得、日々のケアに活かしている。外部評価の報告もし有意義な会議となる様取り組まれている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	指定管理者制度の指定業者として運営しており設置主体の町との連携は常に実施している。	管理の一部が町と言う事もあり、日頃から連携は密に取っている。ケアサービスの取り組み状況等についても常に伝え、協力関係は築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	一人ひとりを十分尊重し、身体拘束のない暮らしを支援していきんる。	見守り重視の工夫をし、拘束のない支援に努め、不穏な状況になる場合はその要因を見つけ話し合い、家族の協力を得て対応している。又、資料を基に研修を実施し、正しく理解する様日々取り組まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	年1度は勉強会を行っている。又、申し送りの時間を利用し啓発を常に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	活用している。今後も研修の機会を設ける。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明、話し合いを行い理解を得ている。常に安心して利用していただけるよう配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しており外部でも受け付けている。何でも言いやすい雰囲気づくりを心掛けている。又、利用にも声かけをし不満などはないか確認を行っている。意見等が有れば即改善に努めている。	ケアプラン作成時や訪問時、運営推進会議等で気軽に言ってもらえるような雰囲気づくりに努めている。その中での意見、要望等は申し送りノートに記録し、全職員に周知し、個々に対応すると共に運営にも反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝、夕の申し送り等の時間を利用し意見を聞くようにしている。日々気になる事が有れば随時話を聞いている。	日々のケアの中でその都度、聞いている。申し送り時でも意見や提案を聞く機会とし把握に努めている。意見や提案については職員で話し合い運営に反映させている。個人面談も必要に応じさせている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部団体が実施する研修に参加している。法人や内部研修には積極的な参加を呼び掛けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	寄り添いの会(神石郡各グループホームが集まり意見交換を行なう会)を2ヶ月に一度実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より不安のないように関係づくりに力を入れている。訴えは尊重する様努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時で十分情報を提供したり希望を聞いている。その後は面会に来られた時に機会を設けている。変化があればその都度希望を聞いている。意見は尊重するように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	主治医、ケアマネージャーと協議している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に一緒に過ごし共感する事を大切にする様取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	細やかに近況や変化等の報告をし、意見を聞いている。面会に来られたら一緒に写真を撮ったりもしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	理髪店やスーパーなどに出かけたり、身近な方がこまめに面会に来られている。	病院受診の際、待合室で馴染みの方と出会ったり、地域の行事へ参加する事で知人や友人に合える機会となっている。また友人の方の訪問もあり、できるだけ馴染みの関係が保たれるように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は利用者同士関わって頂けるようホールで過ごし、協働する場を作り支え合う支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も尋ねて下さる家族がいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いを尊重し、本人本位に立ってプランへも活かしている。	モニタリングや日々の会話の中から把握したり、入浴、散歩時等一対一での対応などで聞く事が多く、その中での思い等は申し送りで職員に周知しプランに反映している。表出の困難な方には家族から情報を得たり、表情から汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族より情報提供して頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りで個々の状況を報告している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族、職員の意見を反映した上で本人に合ったプランを作成している。	月1回モニタリング、3ヶ月毎にアセスメントを実施し、カンファレンスで課題分析を行うと共にできる事にも着目しそれらを活かした計画を作成している。家族の承諾も得、個々に沿った期間で定期的に見直しもされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	すべてを考慮したうえで活かせるようなプランの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院、外出等の付き添いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難訓練を実施し、民生委員さんに協力をお願いをしたり、ボランティアをされている方に協力の依頼等もしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	神石高原町立病院が有り緊急時にも対応できる環境が整っている。受診支援はしている。他科受診にも行っている。	病院への定期的な受診支援を行うと共に歯科を含む他科への受診支援もすべて責任を持って同行し、職員は利用者の受診結果を記録し家族に電話で伝え共有し変化を見落とさないよう体調管理に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携している看護師がいる。週1回の訪問となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報交換や相談に努めている。気になる事があれば随時確認を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の事を第一に考え、家族、医師と綿密に相談しながら方針を決めている。関係者との共有もしている。	本人、家族の思いを大切に医師の指示に従い家族と話し合い、事業所で対応できる状態まで支援し、看取り時点では医師、訪問看護との協力により訪問診療を受けながら本人家族が納得いくまでケアに努めた経緯もある。看護師の指導による勉強会も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し事務所壁に貼っている。また、職員でも話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署指導により火災避難訓練を行っている。	地域住民、利用者と共に消防署指導の下、夜間想定を含め年2回通報、避難、消火訓練を実施している。利用者の避難誘導順を掲示し周知すると共に避難後は各ドアにバツ印をし確認を行う体制となっている。地域との協力体制にも努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけは常に注意し、一人ひとりを尊重しプライバシーの確保に努めている。	個々の生活歴を基に其の人に合わせた言葉使いをしている。入浴や排せつ時にもプライドを傷つけないよう特に気を配っている。個人記録も他の利用者の目に触れないよう配慮し個人情報の扱いにも注意し、研修も定期的に行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が考えて決定できる様に支援し、個々に合った対応で支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを尊重した支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床や入浴後は整容を行なっている。又、理容は月1度、池田理容院、毛染めの方は美容院へいっている。又、外出時には口紅をしたりおしゃれを楽しめるような工夫もしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	春は土筆、ふきのとう、秋は柿、クリ等の季節の食材を使い食事づくりやかたづけは一緒にされ会話も増え楽しくされている。	職員の手作りで旬の食材を使い味付けも良く、副菜も多く、利用者の楽しみの時間となっている。下膳や食器洗いも自分の役割と思われている。行事食等と一緒に作ったり希望の献立を提供したりして食事の楽しみを味わってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要に応じて水分チェックを行っており、水分量も記録している。栄養バランスを考え確実に取って頂けるよう心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアは行っている。できない人には介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを表に記録し、スムーズに排泄できる様支援している。オムツの使用を減らせるような支援もしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、何が必要か考え、食べ物を工夫したり運動量を見直すなど排便を促すようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々に合わせた入浴を行っている。希望があれば毎日でも入浴できる様な支援をしている。	時間帯は午後となっていて、基本は週3回となっているが、希望があれば毎日でも入浴できる体制もできている。常にその人に合わせた支援で気持ち良く入浴できる様な対応に心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間ぐっすり睡眠できるようにしている。また、本人を十分尊重した支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	事務所で管理し、投薬、症状を朝夕の申し送り確認を行っている。薬剤情報をファイルして把握もしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を考慮し工夫している。塗り絵、畑仕事、パズル等それぞれ楽しませている。常に本人のできる事を大切に支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外に出る機会が一日に一度あるように支援し、散歩は毎日行っている。	すべての利用者が体調に合わせて一日に一度は戸外に出かけられる様取り組んでいる。利用者の希望で花火見学や手作り弁当持参でお花見に出かけるなど外出を楽しんでいる。また、広告から情報を得、神楽見物に行く事もあり、気分転換と楽しみの支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方はして頂き必要におおじて一緒に買い物に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望されれば対応し電話を繋げて声を聞いてもらったり必要であれば手紙の代読をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地良い空間となる様季節に応じた飾り付けをする様取り組まれている。壁には手づくりのカレンダーをにかけている。	リビングから菜園がある庭に自由に入出りができ開放的である。利用者と職員の手作りの季節の飾り付けや利用者の写真等が飾られ穏やかに過ごせる空間となっている。リビング、浴室、トイレ等清掃が行き届き清潔感のある共有の場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者一人ひとり自由に過ごして頂いている。その日の体調や精神面をみて会話ができる様工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだものタンス等を使用してもらっている。	和室と洋室があり、畳の上には敷物を敷いたり、愛用品を持ち込まれ使い勝手の良い部屋となるよう工夫されている。また、室内には洗面台もある。清掃も行き届き気持ち良く過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内が広く、歩行の機会が確保できる。障害物がなく安全に移動する事で転倒リスクを減らし自立へ繋げている。		

事業所名:グループホームよなみの里

作成日:平成 27 年 1 月 10 日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		近くに病院がなく、神石高原町病院まで15キロと長距離で受診介助に時間を要している。	できるだけ見慣れたところで生活する	適切なアセスメント 日常的な状況把握の実施	6ヶ月
2					
3					
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。